

会 議 録

会議の名称	令和3年度 第2回文化財審議会
開催日時	令和3年12月3日(金) 15時00分～17時00分
開催場所	水子貝塚資料館 学習室
出席者	吉川節男委員、佐々木真理子委員、大久保善郎委員、塩入たま江委員、松本伸行委員、杜多堯慶委員、小林浩委員 事務局（深迫課長、堀副課長、佐藤主任、大野主事）
欠席者	なし
会議次第	1. 議案事項 （1）市指定文化財候補への登録について （羽沢遺跡出土尖頭器） 2. 協議事項 （1）市指定文化財候補への提案について （本目遺跡出土注口土器・谷津遺跡出土旧石器時代石器群） 3. 報告事項 （1）埼玉県埋蔵文化財調査事業団との共催事業 「ほるたま展 2021」について （2）第10回入間東部地域史研究発表会について 4. その他
会議資料	・文化財保護事業に関する資料
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議録確認	吉川委員

会議内容

あいさつ（議長・課長）

1. 議案事項

（1）市指定文化財候補への登録について（羽沢遺跡出土尖頭器）

事務局：前回の審議会でご提案させていただいた羽沢遺跡出土尖頭器について、今回候補への登録の可否について審議・決議していただきたい。

事務局：実際に羽沢遺跡出土の尖頭器について、こちらに用意しているので実見していただきたい。

→ 資料の実見

委員：使い方としてはどのようなものなのか？

事務局：尖頭器は槍の先につけるもので、突き刺して獲物を仕留める石器である。そのため、刃ではない部分が柄になり、棒状のものに巻き付けて使用していたと考えられる。

委員：尖頭器3点とも整った形をしているが、硬い石からどうやって形作っているのか？

事務局：同じような硬さの石材や動物の角や骨などを用いて、打ち欠いて作っている。そのため、多くの時間をかけて製作したものと想像される。

議長：実際に見てみると立派なもので、指定文化財に相応しく候補へ登録すべきだと思うが、何かご意見等あるか？

委員：（全員一致で賛成）

→ 議決

2. 協議事項

（1）市指定文化財候補への提案について

（本目遺跡出土注口土器・谷津遺跡出土旧石器時代石器群）

議長：協議事項ということで二つの資料が挙げられているが、事務局からその資料について説明をお願いしたい。

事務局：今回提案させていただく資料は2点で、本目遺跡出土注口土器と谷津遺跡出土旧石器時代石器群である。こちらも今回実際の資料（遺物）を用意したので、見ていただきたい。

→ 本目遺跡出土注口土器・谷津遺跡出土旧石器時代石器群の実見・概要説明

事務局：本目遺跡出土の注口土器は、既に指定文化財候補へ登録されている氷川前遺跡出土注口土器と同じタイミングで文化財指定ができればと考えている。現状、市内出土の注口土器で残存状況が良好なものはこれら2点だけであるため、その希少性や土器の造形美、学術的資料として、指定文化財候補へ挙げさせていただきたい。また、谷津遺跡出土の旧石器時代石器群についても、市内最古の遺物であるため、富士見市の始まりの資料として重要といえる。ぜひ、候補へ登録させていただければと思う。

委員：注口土器は複雑な造りの土器であるが、どのようにして製作したものなのか？また、出土例の多い深鉢の縄文土器は煮炊きを行うものと聞いているが、注口土器はどのような使われ方をしたのか教えてほしい。

事務局：底部から胴部、口縁部は粘土紐を輪積して成形する方法で造られ、注口部や把手は別の粘土紐を後から付け足して製作している。注口土器の用途としては、推測になるが、酒や薬等の液体を注ぐためのもので、祭事のような時に使われたのではないかと考えられる。

委員：注口土器は最近発掘されたものなのか？

事務局：最近の出土遺物ではなく、かなり前の発掘調査時の出土遺物である。すでに水子貝塚資料館に展示されているものであるが、近年改めて貴重で重要な資料であることを再認識したため、今回指定文化財候補への登録を審議していただくこととなった。

事務局：今回は協議であるため、指定文化財候補への登録の可否について、一度皆様にお持ち帰りいただき、次回の幹事会でその決議を取らせていただきたい。

議長：造形美のある貴重な資料で指定文化財に相応しいものと思えるが、この件については次回採決をとるので、それまでにそれぞれ考えを固めていただければと思う。

3. 報告事項

(1) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団との共催事業「ほるたま展 2021」について

事務局：本年も埼玉県埋蔵文化財調査事業団との共催でららぽーと富士見にて「ほるたま展」を開催した。

→ ほるたま展 2021 の概要紹介

委員：新型コロナの影響で規模を小さくして開催したとのことであるが、会

場が3階であったため、場所が分かりにくかった。

事務局：新型コロナの影響が無くなれば、また例年の大規模会場で実施できると思うが、次年度同じように規模縮小であれば、会場場所について再考していきたい。

(2) 第10回入間東部地域史研究発表会について

事務局：今年で10回目となる2市1町による地域史研究発表会について、来場者数の制限をかけながらであるが、無事開催をすることができた。

→ 入間東部地域史研究発表会の概要紹介

4. その他

特になし